

現代アメリカ：ウソの帝国

【訳者注】国のトップが腐敗すれば国民が腐敗するという、P・C・ロバーツの指摘（「腐食していくアメリカ国民の人格」<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/150731.pdf>）の正しさを、この論文は見事に例証している。

今回のオリンピックで、国民的英雄とも言える数人の水泳選手が、なぜあのような、「どんな潜在的結果も全く恐れない」（p.3）愚かな狂言を外国で働いたのだろうか？ これは、ワシントンの方針が、ロシアに泥を塗ることであるように、思い通りにならぬブラジルにも泥を塗ることであり、それを（国家の教唆によってか、感化されてか）選手たちが、個人レベルで行ったものとしか考えられない。すべてをウソで固め、それに基づいて行動するワシントンが愚か極まるように、選手たちのやったこともあまりにも愚かだった。日本人が韓国へ行って、同じような狂言を働いたとしたら、あるいは、よその家を訪問していて、財布がなくなったと騒ぎ立てたとしたら、どうなるか？ 相手を貶め、辱める計略としか思われまいだろう。しかし今回のように、狂言だったことが明確になれば、自分（自国）のかぶる泥の重さは計り知れない。しかしこれは我々恥を知る者の言うことで、彼らはそもそも恥の観念がないのであろう。これを麻痺という。麻痺した者たちが世界を支配して、“ロシアの国家主導ドーピング”というウソを押し付けている。

Martin Berger

August 20, 2013, Information Clearing House, NEO

アメリカがウソの帝国だという見方を、過去 10 年ばかりの出来事を追ってきた人で、否定できる人はいないだろう。今日、ワシントンの政策の絶対的多数が、いわゆる“アメリカの民主主義”を土台にして、誰の目にもウソとわかるものの上に築かれていることは、悲しい事実である。

だとすると、リオ・オリンピックのいわゆるアメリカの“英雄”たち——水泳のジェイムズ・フェイゲン、ライアン・ロクテ、ガナー・ベイツ、ジャック・コンガー選手——が、オリンピック村へ向かうタクシーに乗っていて、強盗に遭ったというウソの証言をしたことは、驚くほどのことでもないだろう。現在、これらの選手たちは、ブラジル国内で虚偽の告訴（狂言行為）をしたことで起訴されると同時に、最近、ワシントンの干渉の主たる対象になっていた、現職のブラジル大統領、ディルマ・ヴァーナ・ルセフの名誉を汚したことで、起訴される可能性がある。

正直に言ってこれに驚く必要はない。なぜなら、これらの“英雄的水泳選手”は、アメリカの生活のほとんどあらゆる局面で遭遇する、ワシントンのウソを教育されてきたからである。ホワイトハウスは、国際的な舞台上、気に入らない政府や政治家を引き倒し、ジョージ・ソロスのような CIA の“後援者”たちを通じて、ニセ情報を世界中に広げるためのあらゆる試みをしながら、ウソをつき通してきた。

元米国務長官コリン・パウエルが大真面目に、未知の物質の入ったチューブを、国連安保理の前に示し、これはイラクのサダム・フセインの“犯罪を立証する、説得力ある”証拠で、この国に対して軍事攻撃を始める十分な理由になると言ったのを、全世界が目撃している。

記憶に新しいものでは、有名なアメリカのジャーナリストでピューリッツァー賞受賞者のシーモア・ハーシュが、“テロリスト・ナンバーワン”のオサマ・ビン・ラディンが、現実にどのように殺されたかについて、米政府が公的にウソを撒き散らしている現場を捕らえたことがある。<http://www.lrb.co.uk/v37/n10/seymour-m-hersh/the-killing-of-osama-bin-laden>

彼はまた、ある調査結果を「誰のサリンか」というタイトルで発表し、米政府とバラク・オバマ大統領が、自ら意図的にウソをついて、シリア政府が 2013 年にサリン毒ガスを使ったという主張をしたことを証明した。ハーシュは、アメリカの情報局共同体とペンタゴン内部の情報源から得た情報を用いていた。この証拠から、ホワイトハウスの声明も、メディアの撒き散らした詐欺的プロパガンダも、一つの目標をもっていることが確認された——すなわち、シリアに軍事介入し、ダマスカスの政府をワシントンの傀儡に入れ替え、この国を完全支配するための、口実作りだった。

更には、オンライン雑誌 *American Thinker* はこう記している——

http://www.americanthinker.com/blog/2016/03/hillary_declares_the_4_dead_at_benghazi_compound_nonpersons.html

民主党大統領選の先頭を走るヒラリー・クリントンは、月曜夜、選挙演説で二度目の失言をして、アメリカは、彼女の国務長官時代には、リビアで「たった一人の人的損害も出してない」と主張した。ヒラリー・クリントンにとって、4人の男性事務官と戦士は全く勘定に入らないようだ。彼らはよく見ても、都合の悪い人物だった。もし彼らが生きていれば、処分しなければならなかっただろう。しかし彼らは死んだので、忘れてもよいのだ。

しかし正直なところ、ヒラリー・クリントンのような輩から人は何を期待するだろうか——ワシントン・ポストですら、彼女のウソと“立場の移動”を満載したビデオを躊躇なく提供するのであれば？ 彼女のボスニア、医療、ウォール街、NAFTAについての考えは、常にふらついているが、それは彼女が、アメリカ人は基本的な事実を記憶できないか、最近のアメリカの歴史でも思い出せない、と確信しているからである。

<https://youtu.be/-dY77j6uBHI>

「ヒラリー・クリントン、13分間ぶっ続けにウソをつく」

ヒラリーの見え透いた偽善を非難して、代替メディアの Counter Punch は、#NeverHillary とハッシュ・タグをつけて、この新しい民主党のチャンピオンを、「彼女は薄っぺらで、ごまかし、ウソをつく」と評価し、彼女は最低賃金を1時間12ドルに決めたいのだが、バーニーの1時間15ドルがより人気があるから、全く同じ賃金を取り入れたいのだと言った。突っ込まれると、彼女は、1時間15ドルが「いいと思う」と譲歩したが、連邦レベルでそれが起こるように、指一本あげる気はないと言った。信じられないことだが、彼女はいつも同じこの調子で振舞っている。

<http://www.counterpunch.org/2016/05/24/why-i-am-neverhillary/>

The Baltimore Sun 紙は躊躇することなく、クリントンが議会や米市民から故意に事実を隠していることを非難して、国務省監察長官は、先週、報告書を出して、ヒラリー・クリントンは絶句するほどに厚顔無恥であり、常習的なウソつきだと結論していると報じている。こういったことについて腹立たしいのは、それが実は、ニュースなどではないことである。一年以上前に、ヒラリー・クリントンは国連で記者会見を行ったが、その意図は、彼女の暴露されたeメールをめぐる論争全体にケリをつけることだった。しかし、ほとんどすべての彼女の出す重要な声明はウソである、と「ボルティモア・サン」は言い、我々はもう一年も前、このスキャンダルの初期から、クリントンがウソをついていることを知っている、と付け加えている。 <http://www.baltimoresun.com/news/opinion/oped/bs-ed-goldberg-clinton-email-20160528-story.html>

そこで、最高レベルの役人でさえあからさまなウソをつき、**どんな潜在的な結果をも全く恐れ**ないとしたら、これらの“英雄的水泳選手”を含めた、ほとんどのアメリカ市民から、人は、どんな振舞いを期待できるだろうか？ それ以上に驚くべきことは、これらのウソつきがアメリカの政治体制では出世し奨励され、国家の最高の政治的地位を占めることが許されることである。我々は、あたかもこう言われているかのようである——「ここではウソが信頼され、我々のシンボル、我々の旗印となっている——なぜなら、我々はウソの帝国だからである。」

(マーチン・バーガーは、フリーランス・ジャーナリスト、地政学アナリストで、もっぱら
オンライン雑誌 New Eastern Outlook に拠って活動している。 <http://journal-neo.org/>)